はなぐるま

発行元
大崎第一
地域センター
3491-2000
西五反田3-6-3
第64号
2005.2.5発行

わが街紹介！ 第5弾

各地の見所紹介 その2

今回は上大崎一丁目「寺町」の紹介です

俗に「寺町」と呼ばれるこの地区の生い立ちは江戸時代初めに遡ります。当時徳川家の菩提寺とされた浄土宗大本山増上寺には、沢山の子院がありましたが、振袖火事とも言われた明暦の大火後、区画整理で麻布狸穴に移されました。ところが、この地にも甲府宰相綱重（家光の次男）の屋敷が建つことになり、寛文元年（一六六一）幕命により子院八か寺は現在の上大崎の地に移ってきたものです。

この後にも寺相互の合併や廃寺、さらに移ってきた寺等もあり、増上寺の子院は現在の八か寺となりました。

子院以外にも同宗の宝蔵寺が移ってきており、全部で九か寺がこの寺町を形成しています。

各寺の紹介

JR五反田駅を出て北東に二百メートル程進み左に入ると、NTT関東病院があり、その敷地に沿って行くと、左手に池田山公園、右手に第三日野小学校が見えてきます。この小学校に沿って右折すると道は上り坂となり、上り切った所に周囲を閑静な住宅に囲まれた寺々があります。そこが現在の上大崎一丁目、通称「寺町」と呼ばれているところです。

常光寺（じょうこうじ）

当地の風光を愛した福沢諭吉が生前自ら墓地と定め没した当初は本寺の墓地に埋葬されたことで知られている。

本願寺（ほんがんじ）

境内には朝鮮古代のものといわれる二基の石像がある。また、道の向かい側の墓地には、笠塔婆型の四面に経文をびっしり刻んだ見事な供養塔がある。

最上寺（さいじょうじ）

明治から大正にかけての詩人・評論家・教育者であった戸川残花や、将軍家斉・家定・家茂の三代に仕えた書家の戸川播磨守安清の墓がある。

光取寺（こうしゅじ）

山門を入って右側に舟型七体の石仏・石塔があり江戸初期寛文年間のもので美術的にも秀作といわれている。また、墓地には明治時代の名力士、陣幕久五郎の墓がある。

光取寺　石仏・石塔群

月窓院（げっそういん）

歴代の歌舞伎俳優、坂東三津五郎の墓がある。

清岸寺（せいがんじ）

山門を入ってすぐ左側に祐天上人手植えの桜といわれる古木があり品川区指定文化財となっている。また、墓地には幕末に、講武所の砲術師範・奉行・軍艦奉行などを歴任した、松平履堂の墓がある。

隆宗院（りゅうそういん）

伊東深水と子息万耀とその一門が描いた本堂の天井画は見事である。

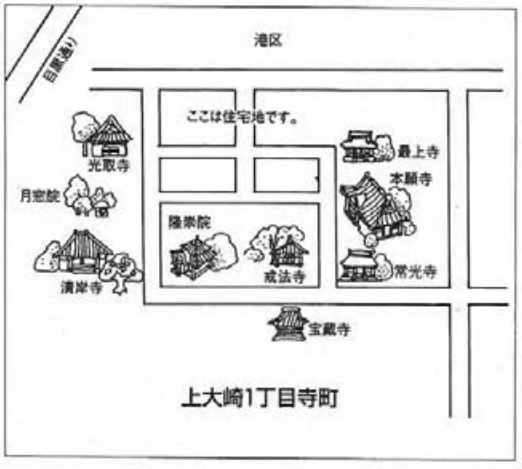
戒法寺（かいほうじ）

江戸時代の戯作者高井蘭山の墓がある。また、本堂の手前には仏足石碑がある。

宝蔵寺（ほうぞうじ）

本寺は他の八か寺と同様、浄土宗ではあるが、芝増上寺の子院ではなく、京都市下京区の誓願寺の末寺であり、浄土宗西山派に属し関東では西山派の寺は、本寺一か寺のみといわれている。

もとは元暦の時代、源　頼朝公が後鳥羽上皇より授けられた、弥陀と観音の二佛を安置するために倉（宝蔵）を、鎌倉に造ったのが始まりであり、天正十八年（一五九〇）芝高輪根岸浦へ移転さらに明治二四年（一八九一）に了福寺の跡地である現在地に移った。



＊　『はなぐるま』は、大崎第一地域センターにおいてあります。また、ホームページもご覧ください。
http://www2.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/01/01/d0207.html

みどころ紹介

寺町にはたくさんの見所がありますが、今回は隆宗院の天井画を紹介します。

隆宗院

本堂に入ると、天井一面の美しい色彩に圧倒されます。それこそ、横になって、すべてを目にいれたい、という要求が、ふつふつとわいてきます。

中心に日本画の巨匠、伊東深水の直径3メートルほどの「牡丹唐獅子図」がひときわ目をひきます。そして、そのまわりに子息の万耀、および一門の画家によって描かれた鮮やかな花々の絵が大小各二十面、豪華絢爛という風情です。唐獅子の鋭い眼光と花々の明るさで、本堂は、光とは別の次元で輝いています。

隆宗院は、徳川三代将軍家光の次男の甲府宰相綱重が、二十二歳の若さで亡くなった奥方を偲んで、奥方の戒名「隆宗院」をとり、寺名にして、寛文九年(一六六九)に創建されたとのこと(当時は、増上寺山内)。本堂は、戦災で消失したため、昭和三八年(一九六三)に再建されました。

後世になってからとはいえ、その際に描かれた美しい花々と、はかない命だった若い奥方を偲んだ綱重の隆宗院創建時のエピソードに、何かロマンチシズムを感じてしまうのは私だけでしょうか。

この天井画は、事前に連絡をすれば、一般にも見せて下さるそうです。

五反田の地にあるこのすばらしい絵には、一見の価値があります。そして、もし、隆宗院にいらっしゃる機会があれば、境内の伊東深水親子のお墓にも参ってはいかがですか。(O・N)

伊東深水／牡丹

短歌・俳句・川柳

明るみし浜に大鷲旋回し
二月の海の視点となりぬ
齊木昭子

台風や地震でうもれし品々は
冬は寒かろ人こいしかろ
瀬戸多美

霜白く町は眠りのさめやらず
迷いし鳥か垂れし一枝に
津田　豊

衿替えて
雑煮祝ふも一人かな
近藤多津

消灯に
ナース去りゆく夜長かな
加藤みよ子

何時の間に
鏡嫌いな人になり
久保田公二

パソコンに負けじと
八十路　筆をとり
加藤みよ子

「大崎第一地区ふれあい健康塾」
が開設されまた。

60歳以上の方を対象に
健康維持や介護予防を目的とした
健康体操やゲームを楽しむ教室です。
動きやすい服装で参加してください。
会場　大崎第一区民集会所第一集会室
日時　2月8日(火)午後2時～4時
　　3月8日(火)午後2時～4時
問合せ　健康課健康づくり係
　　TEL　5742-6746

編集後記

今回ご紹介しましたように寺町はたくさんの見所があります。品川区にこんな閑静な町があることにも驚かされます。皆様方も機会を見て、一度足を運ばれたら如何でしょうか。

さて上大崎に続きまして、次回から東五反田地区に足を進めて参ります。著名な池田山公園や昨年八月に開園したねむの木の庭等も尋ねて見たいと思います。取材の参考になるようなお話があれば、どうか事務局までお知らせ下さい。

久保田

はなぐるま

発行元
大崎第一
地域センター
3491-2000
西五反田3-6-3
第65号
2005.5.5発行

わが街紹介！

第6弾

東五反田四・五丁目を歩きました

東五反田地区はJR五反田駅から北側をほぼ一望した辺りになります。この辺りは、江戸時代は天領として代官が直轄した下大崎村に属し、目黒川を見下ろす台地には諸大名や旗本の屋敷がたくさんあったようです。中央に桜田通りが走りますが、この坂は相生坂と呼ばれています。その左手が今回ご紹介します東五反田四・五丁目です。

池田山公園

この地区での見所といえば、なんと言っても池田山公園です。

江戸時代の寛文十年（一六七〇）に岡山藩池田家の下屋敷ができたことから、この一帯は池田山と呼ばれるようになりました。

下屋敷は当初一万一千坪以上の広大な敷地に、山あり谷あり、鴨場までもあったそうです。明治に入って敷地は縮小されたものの、引き続き池田邸として使われていましたが、大正末期には周囲の大部分が住宅地として分譲されていきました。その後、池田邸の所有者も変遷していきましたが、品川区が購入して昭和六十年（一九八五）に区立公園となり現在に至っています。

起伏に富んだ地形を生かして、高台にあずまやが置かれていますが、ここからの眺めは「のぞき池方式」とも言われ、見事なものです。低地にはひょうたん形の池を配し、その周囲をぐるりと巡ることができる池泉回遊式庭園となっています。

池の周りには、桜、つつじ、紫陽花等の季節の花々が咲き、初夏の若葉、秋の紅葉等四季折々に表情を変える公園は、どの季節に訪れる人も充分に楽しませてくれています。

公園としては規模はそれ程大きくないですが、都内にいくつか残る大名庭園のひとつであり、都心にあるとも思えないようなゆったりと落ち着いた雰囲気を味わうことができます。

NTT東日本関東病院

JR五反田駅東口を出て桜田通りを北に向かい、相生坂を登り始めたところで左に入ると大きな建物が見えて来ます。ここが、旧関東逓信病院と呼ばれていて、現在は病院棟と健康センター棟を備えた「NTT東日本関東病院」です。

この地区には、戦中、戦後をとおして逓信省の貨物倉庫が建てられていたが、昭和二十七年（一九五二）一月旧電電公社の職域基幹病院として関東逓信病院が十四診療科で開設されました。

その後昭和六十一年（一九八六）六月保険医療機関の指定を受け、一般にも開放され、誰でもが診療を受けられるようになりました。

平成十一年（一九九九）七月には、NTTの再編成により病院名が現在の「NTT東日本関東病院」に改称されました

東京ヴァイオリン製作学校

相生坂を高輪方面に登りきる少し手前を左に入り、静かな住宅地の中に、もみの木と背の高いヒマラヤ杉がある所が、「東京ヴァイオリン製作学校」です。

昭和五四年（一九七九）に校長の無量塔（むらた）蔵六さんが、自宅の敷地に、終業年限四年の学校を創立しました。無量塔さんは、日本で初めてのヴァイオリン製作のマイスター（巨匠）をとり、国際審査員もされた方です。

創立当時は、技術を身につけたいという考えの若者が多く、入学希望者も多かったそうです。それから二十数年間多くの卒業生が巣立ち、それぞれのところで活躍されています。

＊ 『はなぐるま』は、大崎第一地域センターにおいてあります。また、ホームページもご覧ください。
http://www2.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/01/01/d0207.html

ねむの木の庭

平成十六年八月に池田山の地に品川区立「ねむの木の庭」が開園されました。約二百坪の庭園には、約六〇種類の草花、五〇本の樹木が植えられています。

この庭は皇后陛下美智子様がご誕生からご成婚までを過ごされた、正田邸の跡地に作られました。

ねむの木の庭の、命名の由来や、皇后陛下の御歌、植物紹介、夜間のライトアップ、当時の御門の再現など、随所に細やかな工夫がなされています。

閑静な住宅地の雰囲気にとけ込んだ、ほっと心の和むお庭といえます。

薬師寺東京別院

一三〇〇年の歴史を持った奈良、薬師寺唯一の別院です。

宮尾登美子の小説「伽羅の香」の主人公後家流香道の故山本霞月氏の旧宅跡に建っており、平成十五年に新築された建物には、氏が香道に親しまれた座敷を移築復元しています。

写経道場では、随時写経ができるそうです。日常の喧騒を離れ、静かな〝ときを過ごせる空間です。

インドネシア大使館(旧鈴廼屋住宅)

東五反田五丁目の高速二号線沿いにインドネシア共和国大使館があります。

この建物は、昭和十一年に松坂屋を率いる伊藤家が建てた鈴廼屋住宅です。石積みの尖塔とウロコ模様の特徴的な屋根瓦で、東京大空襲で檜造りの日本間など内部を焼失しましたが、再建されて旧状を良くのこしています。

みどころ紹介

五反田公園　桜並木

JR五反田駅東口から左手に3分ほどの所に、桜田通りの喧騒がうそのような桜のトンネルがあります。

この桜並木は少し急な石畳の坂道で左右に大きなソメイヨシノがあります。昭和六十二年には品川百景にも選ばれていて、春は「知る人ぞ知る」お花見ポイントとなっています。この大きな桜の並木は、花の季節だけではなく、夏には繁った葉が暑い日差しを遮ってくれるので、昼休みに近くの会社の人が、お弁当を広げて賑わいます。また、蝉が大合唱で、隣の児童センターの子どもたちが、網を持って蝉とりに汗を流しています。秋には紅葉が見事で、池田山を散策する人の目を楽しませてくれます。彼岸花が咲き、むかごが採れるスポットもあります。そして、冬には、いろいろな鳥が飛んできて、木の枝で羽を休めています。

四季折々に、都会の雑踏と背中合わせで、自然が息づいている石畳の桜並木です。少しデコボコで、歩きづらい道ですが、この桜と石畳の道が、ヨーロッパの古い街の中世の石畳のように、磨り減って、歩きやすい道になるまで、ずっと残っていくことを願います。

短歌・俳句・川柳

杖持てる新しき友を得
我も又デーサービスの
一日(ひとひ)たのしむ
瀬戸　多美

孫のなき我が家の来客十五才
弾ける乙女に桜満開
齊木　昭子

四万十の空に乱れる初夏の鯉
生方　恵美子

全山を若葉にかえて衣更え
近藤　多津

雲遊ぶ若草山やわらび餅
中北　芳子

(湯河原にて)
幾壷の足湯せかるる春の雨
加藤　みよ子

筍が母の土産で　ちと重い
久保田　公二

トピックス

平成17年4月7日(木)に第一日野小学校で『平成17年度春の全国交通安全運動中央大会』が行われ、小泉総理大臣が出席されました。

編集後記

「はなぐるま」は毎号、私たち編集担当者が街に足を運んで、見たり、聞いたりしたことをお伝えしています。精一杯努力している積もりですが、足りないところも有ると思います。

お気づきの点が有れば遠慮なくご指摘お願いいたします。

次回は東五反田一・二・三丁目をご紹介する予定なので、ご希望等が有れば事務局まで是非ご連絡下さい。

久保田

はなぐるま

発行元
大崎第一
地域センター
3491-2000
西五反田3-6-3
第66号
2005.8.5発行

わが街紹介！

第7弾

東五反田1・2・3丁目を歩きました

前回に引き続いて今回は東五反田1・2・3丁目をご紹介いたします。この地域には五反田の古い顔と新しい顔が同居しているように見えます。

俗に島津山と呼ばれる東五反田1・3丁目は、江戸時代仙台藩伊達家をはじめ、大名や旗本の下屋敷も多く見られ、こうしたゆかりの古い社寺や建物、史跡等が今も残されています。

一方東五反田2丁目は目黒川沿いにあたりますが、現在では都市計画も進み、五反田の新しい顔として生まれ変わろうとしています。

島津山と清泉女子大学

現在の清泉女子大学のある辺りは、江戸時代仙台藩伊達家の下屋敷があったところですが、明治6年旧薩摩藩島津公爵家の屋敷となったことから「島津山」と呼ばれるようになりました。明治大正を通じ、島津邸では政財界人のパーティーが行われたり、天皇の行幸もありました。

昭和の金融恐慌のあおりを受け、3万坪の敷地も三分の二が売却され、残った敷地もその後日銀からGHQ等を経て、昭和37年に清泉女子大学が入手し、現在に至っています。

清泉女子大学（旧島津邸）

同大学は昭和25年横須賀市に設立され、品川区進出以後は区と共催で公開の「土曜自由大学」や大学の公開講座「清泉ラファエラ・アカデミア」を地域に向けて積極的に開催しています。

大学の本館は、著名な英国人建築家ジョサイア・コンドルの設計により大正6年に建てられ、ルネサンス風の外観のみならず大理石の壁、ステンドグラス等の内装も当時の洋風建築を代表する見事なものです。なおこの建物は月二回程度（原則第2・4水曜）一般公開されています。（要予約・大学休講中は公開していません。）

庭はキリシマツツジの名所として有名で、樹齢200年以上と言われるフウ（楓）の大樹は、品川区指定天然記念物で同校のシンボルにもなっています。

雉子神社

桜田通りの相生坂を登っていくと右手に、雉子神社があります。今ではビルの中に組み込まれています。昔から地元の人々に「雉子の宮さん」と呼ばれ親しまれてきました。上村淳之作の拝殿の天井画、圓鍔勝三作の拝殿屋根の雉子彫刻は芸術作品としても一見の価値があります。通りに面した大きな石碑には、〝白雉子が舞い降りて云々〟という雉子神社の謂れが書かれています。そのそばには品川区保存樹のクスの木、区指定天然記念物のイチョウもみられます。

宝塔寺

雉子神社の南となりに宝塔寺があります。正式には白雉山（ビャクチザン）弦光院宝塔寺という天台宗のお寺です。明治政府の神仏分離政策がとられるまでは、永い間別当として隣接する雉子神社を守ってきたお寺です。石積の階段を昇り山門をくぐると、すぐ左に〝元三大師堂〟があります。かつてはここにお参りしてから網を下ろすと大漁になるといわれ、漁民の信仰を集めました。

袖ケ崎神社

宝塔寺を出て、相生坂をさらに登っていくと袖ケ崎神社があります。こじんまりとした神社で、袖ヶ崎町会が氏子です。保延3年（一一三七）に、京都の稲荷大明神を勧請した由緒ある神社です。

東五反田付近

＊ 『はなぐるま』は、大崎第一地域センターにおいてあります。また、ホームページもご覧ください。
http://www2.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/01/01/d0207.html

本立寺

袖ヶ崎神社を出て相生坂を少し下ると石造りの山門が見えてきます。ここが日蓮宗妙建山本立寺です。参道の突き当りには、赤っぽい屋根が印象的なモダンなコンクリート造りの本堂があります。本堂の右手に広がる木立に囲まれた墓所には、柳家金語楼・昔々亭桃太郎他著名人も眠っています。閑かで緑濃い都会の中のオアシス的境内ですが、環境保全に苦労されているようです。

寿昌寺

本立寺の南側に臨済宗大崎山寿昌寺があります。山門を入ると、大きな木が陽射しを遮るほっとする参道です。右側は墓所で、古いお墓もずいぶんあります。本堂の隣は庫裏で、修行の寺という風情で落ち着いた素朴な雰囲気です。

東五反田2丁目

この地区は第61号でも紹介しましたが、「五反田」という地名が古くから使われていた土地で、寛文11年（一六七一）の検地帳にその名称が見られるそうです。

東五反田2丁目内には、品川区が全国に先駆けて打ち出した、系統的な教育活動を実現する小中一貫校教育のための校舎が、平成18年4月よりの開校にむけて建設されています。

隣には、平成16年11月に劇団四季がキャッツ・シアターを開設し、20年あまりのロングランミュージカル「キャッツ」が上演されています。

また、将軍がタカ狩りの際に渡ったということから名づけられた「御成橋」では、芝浦の水再生センターより送られてきている再生水を使って、目黒川の浄化や景観演出を目的に橋の両側より散水が行われています。日没後はライトアップもされています。

御成橋散水風景

＜散水時間＞ 8:30～8:40、9:00～9:10
その後1時間ごとに散水。21:00～が最終。

みどころ紹介

大正坂

島津山の住宅街を登っていくと、大正坂があります。「なるほど、島津山は山」と納得させられます。道なりにどんどん行くと、更に狭くなってきて、階段を登ると大正坂の碑があります。「どこかのお宅のお庭かしら」という感じの静かな通路です。赤いバラの横、植木鉢の隣など、草花の間に無造作に置かれた彫刻が並びます。

これは、ここに住んでいた彫刻家の故小金丸幾久氏（1914～2003）がご自分の作品を自宅の前に展示したものだそうです。氏の多数の作品の中では、大井町駅前の「平和の像」が私たちには身近な存在かもしれません。

この大正坂には、丸みのある大らかな女性像や埴輪のような像など、あたたかみのある作品ばかりが置かれています。草花の中にあっても、全く違和感なく溶け込んでいます。誰もが通れる通路にご自分の作品を置かれた小金丸氏の心の広さと温もりが感じられます。

そして、短い距離ですが、ここを通ると、作品からのエネルギーが与えられ、身も心もリフレッシュされる空間のような気がします。是非、一度は通ってみてください。

短歌・川柳

袖通す　浴衣の糊が　心地よく
花火に孫を　並ぶ縁さき
津田　豊

あじさいが　庭一面に　咲きはじむ
蝉も来てなけ　夏近づきぬ
瀬戸　多美

ネクタイを　たまにはしたい　時もある
久保田　公二

あの山は　壮年期とか　青すすき
加藤　博子

手入よき　下町の路地　釣忍（つりしのぶ）
中北　芳子

迎へ火や　亡夫（つま）の写真は　若きまま
加藤　みよ子

【編集後記】

二回にわたり東五反田をご紹介しましたが、いかがでしたか。

古い歴史を豊かに残しながらも、新しい街の顔も生まれてきている様子が見えてきましたでしょうか。

次回ご紹介します西五反田地区も同じように新旧の顔があります。

編集委員もしっかり足を踏みしめて歩いていこうと思います。

ご期待ください。

久保田

はなぐるま

発行元
大崎第一
地域センター
3491-2000
西五反田3-6-3
第67号
2005.11.5発行

わが街紹介！ 第8弾

各地の見所紹介
その5
西五反田地区

西五反田1・2・3・7・8丁目を歩きました

西五反田は、JR五反田駅から山手線の外側に広がる地域で、古くは谷山村、桐ヶ谷村、更には下大崎村、上大崎村の一部にまたがる地域でした。昭和7年東京市の区制施行時に全体が大崎町の一部となり、昭和42年に現在の西五反田1～8丁目の表示になりました。今回ご紹介する地区は、明治44年五反田駅が開設されて以降、次第に農耕地帯から市街地へと発展してきたところです。その歴史の陰で、つい最近まで度々氾濫を繰り返してきた目黒川の治水対策の苦労もこの地域にとって忘れられない出来事です。

やっちゃば

目黒川沿いに野菜を取扱っていたので通称『やっちゃば』と呼ばれた中央卸売市場荏原市場が賑わっていました。

市場の歴史を遡れば、明治10年（一八七七）に、政令による許可制となり、最初に青物横丁に市場が設けられました。

その後、米騒動や関東大震災による物価高騰対策として、公設市場を設置することになり、昭和11年（一九三六）に中央卸売市場、翌年に、ここ荏原分場等が開設されました。戦後の配給制度の機関としての役割も果たし、平成元年（一九八九）5月に城南地域の市場整備計画のため、神田、荏原、蒲田の市場が大田市場に統合され、ここ荏原市場は歴史を閉じました。

その跡地に建設されたのが、大崎第一地域センター、西五反田高齢者複合施設、区民住宅ファミーユ西五反田東館・西館等です。大崎第一地域センターは、西五反田2丁目の大崎郵便局のそばから、目黒川を越えて移転してきました。

徳蔵寺

山手線と首都高速2号線の交差した通称「藤倉ガード」のすぐそば、天台宗長命山地蔵院徳蔵寺があります。

寺の開基は天正年間（一五七三～九一）と古く、御本尊は阿弥陀如来（区内最大）、観音、勢至の三尊形式、六地蔵閻魔法王、三途老婆また、境内には塩地蔵、三輪地蔵、庚申塔、諸国一の宮標石（いづれも区認定の文化財）があり、昔は十夜講、庚申供養が行われ、民間信仰の場でありました。

徳蔵寺
「第一日野小学校発祥之地」の碑

門の手前に「第一日野小学校発祥之地」の碑があります。明治初期当時の住職野田玄海師時代、私立の小学校「寺子屋」であったのが、明治11年公立の第一日野小学校となり、当時の生徒数は30名ぐらいでした。

柳生藩下屋敷跡

西五反田3丁目の谷山公園に「旧・大和柳生藩柳生家下屋敷跡」という立て札があります。この下屋敷は、約一万二千坪の広大な敷地で、現在の首都高速2号線、山手線、東急目黒線と当時の目黒川に接していました。

柳生氏は参勤交替をしない定府の大名家で、初代宗矩から十兵衛、宗冬ら代々徳川将軍の剣術師範を職としました。今の首都高速2号線沿いにあった表門を出入りする剣豪たちの面影が偲ばれます。

目黒川の柳

昭和62年特別区政40周年を記念して品川区が制定した「しながわ百景」のひとつに西五反田1丁目の「目黒川の柳」が区民投票で選ばれました。両岸の柳が春を彩る桜と共に、今も目黒川を緑で飾り、道行く人々に風情を感じさせてくれます。目黒川の氾濫や汚染を防ぎたい当時の区民の願いがうかがわれるようです。

＊ 『はなぐるま』は、大崎第一地域センターにおいてあります。また、ホームページもご覧ください。
http://www2.city.shinagawa.tokyo.jp/jigyo/01/01/d0207.html

目黒川

目黒川は、長い間「あばれ川」と呼ばれていました。特に河口から大崎橋の辺りまでは、土地が平坦だったこともあり、潮汐の影響も加わって、氾濫することが度々あったようです。大崎第一地域センターや谷山橋のあたりは、川の湾曲が大きく、大雨で洪水がある度に、その姿がかわっていたそうです。

目黒川の改修工事は大正１２年から始まったそうですが、中目黒から五反田の大崎橋までの工事は、昭和３年から８年位までかかって完成したそうです。それまでの間、目黒川はまだまだ蛇行がひどく、また少しの雨でもすぐに氾濫していたようです。その度に川沿の旧家では、ひさしにつるしてある川舟を降ろし、家の２階で炊き出しをした握り飯を、近隣の家に配って廻ったということです。途中幾度かの中断はあったものの、池尻から河口までの護岸改修工事は昭和１５年に一応完成し、ほぼ現在の直線的な目黒川になりました。護岸も高く、川底も深く、川幅もかつての倍以上になり、物資輸送の舟も上がりやすくなったそうですが、川のあちこちに、今でもその当時の船着場の跡がみられます。

平成元年には、五反田・大崎の辺りで、大雨による大きな浸水被害が発生しました。都営地下鉄の五反田駅が水浸しになったり、床上・床下浸水が続出したりしてニュースに取りあげられました

品川区と東京都下水道局では、治水対策として、下水道管の整備を行ってきておりますし、また、東京都建設局が荏原市場跡地の地下に作った目黒川荏原調節池という川の水を貯留する施設もあります。以前と比べ、浸水被害は軽減されていますが、今でも川の水位が警戒水位を超えると、警報のサイレンが鳴り、非常時に備えて川沿には、何箇所も土のうが積まれています。

目黒川の今昔

五反田文化会館

五反田駅から目黒川を越えて大通りから少し入ると「五反田文化会館」があります。品川区の施設である「五反田文化センター」と混同する方もいるかもしれませんが、こちらは民間の貸施設です。

昭和35年設立当時は木造2階建てでしたが、昭和45年4月に現在の鉄筋コンクリート4階建てに建て替えられました。

年に何度かこの場所で行われる「五反田寄席」を楽しみにしている方もおられるのではないでしょうか。駅から近い立地条件の良さから、多くの企業のセミナーやさまざまな講演会などに利用され、商業や文化の拠点となっています。

TOC

西五反田7丁目の中央部分を占めているのが第一～五のTOCビルです。

高齢者の方々はご存知と思いますが、「クスリハホシ」のキャッチフレーズで有名になった星製薬の工場跡地です。

星製薬は、戦後第一回目の参院選で全国トップ当選された星一さんが大正15年に設立した製薬会社でしたが、昭和25年同氏が米国で客死されたことに伴い、大谷重工業やホテルニューオータニの創設者である大谷米太郎さんに経営が移り、最初は星製薬の子会社の東京卸売センターとして昭和42年に設立され、昭和45年TOCビル竣工に始まり、現在のビル群が順次竣工しています。

ゆうぽうと

「しながわ百景」に「TOCとゆうぽうとのある街並み」が紹介されていますが、西五反田8丁目を代表とする建物といえばやはり「ゆうぽうと」でしょう。

会議室、ホテル、ホール、レストラン、フィットネス、検診センター等各種の施設を備えたこのビルは、昭和57年4月、化粧品会社跡地に竣工して以来、今日まで23年の歴史を歩んでいます。

この間多くの人に利用されていますがここで年1～2回開かれる「ゆうぽうと市」も地元の人に人気があります。今年は10月初めに本やお花の市が出ました。

短歌・川柳

菊の香や　変体仮名の　母のふみ
中北　芳子

天高く　二年がかりの　ビル建ちて
加藤　みよ子

長き雨　せめて楽しむ　傘のいろ
福島　信代

ぼけ防止　頭の体操　いちにさん
瀬戸　多美

みんなをたして　いくつになるや
小田原　寿美女

降る雨を　丸めて落す　芋の傘
津田　豊

シルバー席　向ひの婦人に　片思ひ
久保田　公二

川やっと　澄んだか魚　顔を見せ

【編集後記】

西五反田の賑やかな街の今昔を、ほんの少しご紹介を致しました。こんな話は知っていたという方も多いでしょうが、新しく越して来られた方には、初めての話も有ったのではないかと思います。

次号は西五反田4・5・6丁目を歩いて行きます。

「はなぐるま」が一人でも多くの方々に地元の話題を提供できれば、と願っています。

久保田